

## 菊竹清訓の海洋建築に関する研究

## 啓蒙活動の変遷

Study on marine architecture of Kiyonori Kikutake

The change of the enlightenment activity

○片岡繁人<sup>1</sup>, 大川三雄<sup>2</sup>\*Shigeto Kataoka<sup>1</sup>, Mitsuo Ohkawa<sup>2</sup>

Abstract: In this article, I will treat the activity about the marine architecture of Kiyonori Kikutake engaged in the field of marine considered as solution to city problem as an architect in future. I pay attention to enlightenment activity and clarify the change from data for the study "book, lecture, manuscript". As a result, I was able to watch the possibility of the change of the activity by three expansion period.

## 1. はじめに

現代日本における都市を見ると、不統一性や雑多性といった印象を受ける。建物群のレベルや外観の統一の無さやそれによる雑多な感覚があり、都市の不完全さを感じる。日本の首都東京においてもその例外では無く、その特徴が認識できる状況が続いている。戦後になって丹下健三などの建築家が、当時の人口増加などによる都市の過密化などの危惧し、都市計画に着手、さまざまな案が提出された。その内でも人間の生活や社会基盤を念頭に置いて計画を行った人物として、菊竹清訓が挙げられる。当時の工業都市や産業都市といった考え方を否定し、生活が重要とした提案「塔状都市」(1958)や、埋立や土地問題などを取り上げ、人間社会の基盤を支えようとする提案「海上都市」(1958)などが主な計画案であり、これらによって都市問題を解消しようとしていた。菊竹の海上都市に関連する提案は、晩年まで取り組まれており、海洋という側面から社会問題・都市問題を解決しようとしていた。今後も都市の状態が深刻になっていき、さまざまな問題が発生することが容易に考えられる。こうした問題に対処するためには、都市をシステム的に見て、海という媒体を使って陸地の問題をも解決し、より人間的な都市を目指した菊竹の建築思想は必要になってくると考える。

## 2. 研究目的・方法

本研究では、今後の都市問題解決に必要なであろう海洋分野に、建築家として携わった菊竹清訓の海洋建築に関する啓蒙活動の変遷を明らかにする。研究対象は、①単著、②講演会記録、③原稿とし、それらの関係性から活動の変遷を辿る。単著においては講演会・原稿の一部を掲載したものが多く、単著の傾向を見ることで、講演会・原稿活動との関係が見られると考えられる。啓蒙活動としては講演会に顕著に現れる

と考えられるので、講演活動の回数が落ち着く時期にある 1990 年頃までを研究対象とする。

## 3. 単著の境とした活動の変化

講演会活動と原稿をタイトルのみで見た場合、単著の出版を境にして内容が変化している。その境とした時期を拡大期とすると、3つの拡大期が見られる。『代謝建築論』(1969)・『人間の建築』(1970)・『人間の都市』(1970)が出版された第一拡大期、『建築のこころ』(1973)・『海上都市』(1973)が出版された第二拡大期、『人間の環境』(1978)が出版された第三拡大期の3期である。また、この3つの拡大期を境に講演会・原稿活動を四期に分ける。

## 4. 活動内容の分類

講演会・原稿のタイトルを、3つの拡大時期から見た場合に、海上計画・海中計画・海洋計画・都市住居・海洋構造・臨海(港湾)・人工地盤・情報と分類できる。これらは海に関連しているものと都市に関連しているもの、海上都市の技術的要素として『海上都市』(1973)で記述されているものから分類したもので、これらの分類したものは拡大時期を境に講演会・原稿ともに変化を見ることができる。この分類において、海上計画は講演会・原稿ともに第一期から活動を見ることができる。都市計画を題材ともものほかに多くあるが、本論では「都市計画」と称して活動しているものは除いている。

## 5. 拡大時期

## 5-1. 第一拡大期

単著『代謝建築論』・『人間の建築』・『人間の都市』によって拡大される時期である。『代謝建築論』は、設計の方法論として「か・かた・かたち」の三段階方法論を菊竹が提案し、それによるデザインやその本質を捉えようとしていた。『人間の建築』は、人間的空間の追求することの重要性を説いており、空間に対す

る認識を、伝統・機能・公共などの視点からその特徴を見ている。『人間の都市』は、都市の環境への取り組みとしてどうあるべきかをテーマとしており、都市計画や都市デザイン、都市住宅と展開する。いずれも人間（住民・市民）としての解釈を念頭に置いたもので、都市への認識と変革について説いている。講演会・原稿ともに見られる傾向としては、海中計画・臨海（港湾）・情報といった要素が見られるようになる。臨海（港湾）・情報は第四期にかけて活動が見られるが、海中計画はともに 1969 年ごろの活動しか見ることができない。後に海洋計画に関するものが見られるようになるので、その関連が考えられる。都市住宅については、講演会では 1965 年から、原稿活動では 1969 年から行われており、それぞれ内容を比較して検討したい。海洋計画については原稿活動にて 1969 年から見られ、講演会活動では 1974 年から見られ、これについても内容を比較し検討したい。

5-2. 第二拡大期

単著『建築のこころ』『海上都市』によって拡大される時期である。『建築のこころ』は、NHK の番組「女性手帳」にて放送されたものをそのまま書籍にしたもので、建築の根源的なものについて触れており、自らの作品を通して建築・都市・環境に対する思想を説いている。『海上都市』は、当時ハワイ海上都市計画や沖縄海洋博といったプロジェクトに取り組んでおり、こういった現実的な課題となってきた海上都市についての現状の報告として製作されたもの。主にハワイ海上都市に関する内容が占めており、計画背景や技術背景などについて触れられている。講演会・原稿ともに見られる傾向は、海洋構造要素が見られる。『海上都市』が出版され、ハワイ海上都市の計画途中のこと

もあり、構造技術的側面の検討が影響していると考えられる。また前記したように 1974 年から講演会にて海洋計画の活動が見られ、原稿活動の海洋計画の内容と比較し検討したい。この頃の原稿活動として海上計画が多く見られ、このこともハワイ海上都市計画が背景にあると考えられる。

5-3. 第三拡大期

単著『人間の環境』によって拡大される時期である。『人間の環境』は、人間環境と機械との関係性を説いたもので、それまでの自然と人間という環境に機械という要素が加わったとして、それによる共存環境や共通性といったものに触れた内容になる。講演会・原稿ともに見られる傾向は、人工地盤要素が見られる。この頃に、フローティングに関するホテルなどの案をコンペで出しており、それによる影響が考えられる。

6. まとめ

講演会・原稿活動を単著という媒体から見た場合に、単著出版時期を拡大時期として、啓蒙活動の内容を全四期に分けられ、海洋建築の変遷の可能性を見ることができた。

今後の課題としては、単著による全四期への関係性、原稿活動の具体的な内容による再検討、単著に掲載された講演会・原稿活動と掲載されなかったものの分析、を対象とし研究を続ける。

参考文献

- [1] 『復刻版代謝建築論か・かた・かたち』 菊竹清訓 彰国社 2008
- [2] 『人間の建築』 菊竹清訓 井上書院 1970
- [3] 『人間の都市』 菊竹清訓 井上書院 1970
- [4] 『建築のこころ』 菊竹清訓 井上書院 1973
- [5] 『海上都市』 菊竹清訓 鹿島研究所出版会 1973
- [6] 『人間の環境』 菊竹清訓 井上書院 1978
- [7] 『菊竹清訓作品集 (1) 型の展開』 菊竹清訓 求竜堂 1990
- [8] 『菊竹清訓作品集 (2) 型の概念』 菊竹清訓 求竜堂 1990
- [9] 『菊竹清訓作品集 (3) 日本型住宅』 菊竹清訓 求竜堂 1990
- [10] 『菊竹清訓作品集 (4) 新世紀の建築をめざして』 菊竹清訓 求竜堂 1998

表 1. 講演会・原稿活動分類表

	第一拡大期												第二拡大期						第三拡大期						第四期					
	1964	1965	1966	1967	1968	1969	1970	1971	1972	1973	1974	1975	1976	1977	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990			
講演会活動	海上計画																													
	都市住居																													
	海中計画																													
	臨海(港湾)情報																													
	海洋計画																													
	海洋構造 人工地盤																													
原稿活動	海上計画																													
	都市住居																													
	海中計画																													
	臨海(港湾)情報																													
	海洋計画																													
	海洋構造 人工地盤																													

『代謝建築論』(1969) 『建築のこころ』(1973) 『人間の環境』(1978)  
 『人間の建築』(1970) 『海上都市』(1973)  
 『人間の都市』(1970)